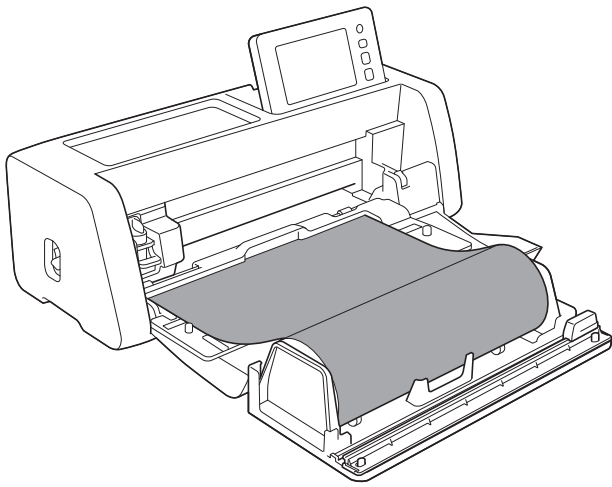


ロールフィーダー

Scan & Cut DX

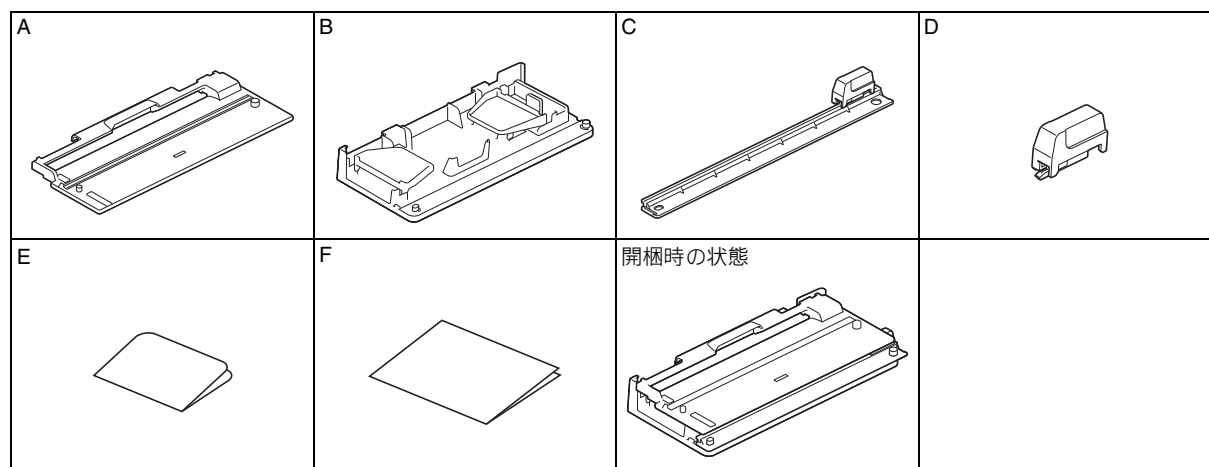


目次

はじめにお読みください.....	2
付属品.....	2
使用上の注意.....	2
ロールフィーダー用のデータを作成する	3
ロールフィーダー機能を認証する	3
データを作成する	4
カス取り枠追加機能	5
データを FCM 形式で書き出す	7
データを本体に転送する	8
ロールフィーダーを取りつける	9
本体にロールフィーダーベースを取り付ける	9
ロールホルダーをセットする	10
ロールフィーダーに素材をセットする	10
素材の先端を確認する	11
素材の先端を整える	12
素材を挿入する	14
ロールフィーダー用のデータを本体に呼び出してカットする	15
データを本体に呼び出す	15
カットする	16
試し切りをする	18
お試し搬送をする（トライアルフィード）	20
カット開始位置を変更する	21
連続してカットする	22
ロールフィーダーを取り外してマット搬送に戻す	23
消耗品／お手入れ	25
交換の目安	25
ロールフィーダーカッターを交換する	25
ロールフィーダーカッターを掃除する	27
困ったとき	28
素材が本体に詰まったときは.....	30
エラーメッセージ	32
カッティングマシン本体のエラー	32
CanvasWorkspace のエラー	32
ご使用の前に知っておくべきこと	33
ロールフィーダーの使い方	33
適切な素材	33
お使いいただける素材の例	33
お使いいただけない素材について	35
ロールフィーダーに装着できるロール素材のサイズ.....	36
使用できるブレード	36
スキャナー昇降レバーの位置	36

付属品

キットを開封後、付属品を確認してください。



名称	
A	ロールフィーダーベース ^{*1}
B	ロールホルダー
C	ガイドレール ^{*1}
D	ロールフィーダーカッター ^{*2}
E	CanvasWorkspace (PC 版) のロールフィーダー用データ編集機能とサンプル模様 (1 デザイン) の認証カード
F	ご案内

^{*1} ロールホルダー (B) に取り付けられています。

^{*2} ガイドレール (C) に取り付けられています。交換時以外は外さないでください。外れてしまった場合は、P.26 「ロールフィーダーカッターを取り付ける」を参照してください。

この付属品は消耗品です。切れ味が悪くなったと感じたら、CADXRFC1 (ロールフィーダーカッター) をご購入ください。消耗品のご購入については、ロールフィーダーをお買い上げいただいた販売店にお問い合わせください。

使用上の注意

- このアタッチメントは ScanNCut DX 専用のものです。ScanNCut DX 以外の機種ではご使用できません。
- ロールフィーダー機能をお使いいただくためには、専用アプリの CanvasWorkspace (PC 版) をお手持ちのパソコンにインストールする必要があります。
- ロール素材の幅は 305 mm (12") のもののみご使用できます。
- この説明書の記載内容は、予告なしに変更することがあります。
- 取扱説明書に掲載している画面は、実際の画面とは異なる場合がありますので、ご了承ください。

ご使用になる前に、P.33 「ご使用の前に知っておくべきこと」をお読みください。

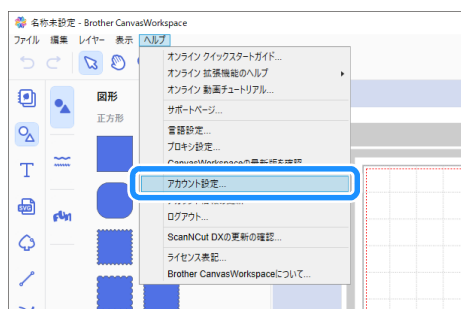
ロールフィーダー用のデータを作成する

CanvasWorkspace (PC 版) で、ロールフィーダー用のデータを作成します。

- CanvasWorkspace (PC 版) (バージョン 2.0.0 以降) がパソコンにダウンロード/インストールされている必要があります。
(<http://s.brother/cuoae/>)
- CanvasWorkspace をご使用する場合、CanvasWorkspace のログイン ID が必要です。
無料のアカウントをお持ちでない場合は、インストール後の画面から、[アカウントの新規作成] をクリックし、画面の説明に従ってアカウントを作成してください。
- CanvasWorkspace (Web 版) では、データの作成、編集をすることはできません。

ロールフィーダー機能を認証する

- 1 パソコンで、CanvasWorkspace を起動します。
- 2 CanvasWorkspace の「ヘルプ」メニューから「アカウント設定 ...」を選択します。



- 3 「拡張機能の認証」をクリックします。



- 4 付属のカードに記載されている認証コードを入力し、「認証」をクリックします。
- 認証にはインターネット接続が必要です。
 - アルファベットの「O」と「I」は、認証コードでは使用していません。
 - 認証コードは CanvasWorkspace の 1 つのログイン ID に対してのみ有効です。同じ認証コードを再度使用することはできません。



- 5 認証確認画面が表示されますので、内容を確認し、問題なければ「認証を確定する」をクリックします。



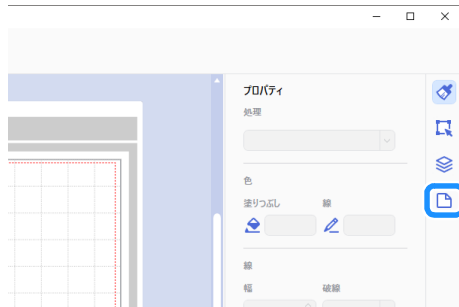
- 6 「OK」をクリックすると認証が完了します。

データを作成する

CanvasWorkspace で、ロールフィーダー用のデータを作成します。

■ フォーマットの準備をする

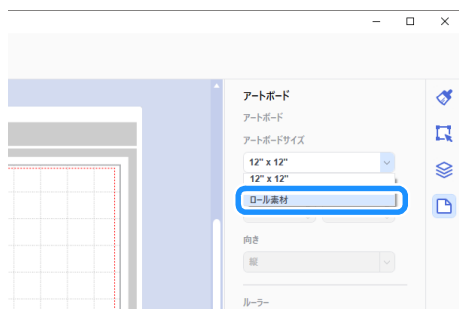
- 1 パソコンで、CanvasWorkspace を起動します。
- 2 画面の右端にある  「アートボード」をクリックします。



▶ コントロールパネルの表示が「アートボード」に切り替わります。



- 3 「アートボードサイズ」から「ロール素材」を選択します。



▶ 背景のマット表示が非表示になります。

- 4 必要に応じて、アートボードの高さ、向きを変更します。

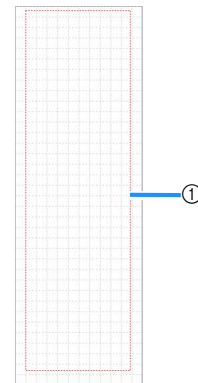


- ① アートボードの高さ
- ② アートボードの向き（縦 / 横）

▶ フォーマットの準備が完了しました。

お知らせ

- アートボードの向きを変更しても、データの向きは自動では変わりません。
- 横向きにデータを作成しても、カットデータ (.fcm ファイル) に書き出すと、縦向きのデータになります。カットデータについて、詳しくは、P.7 「データを FCM 形式で書き出す」を参照してください。
- アートボードのサイズは素材の大きさを表現しています。赤枠はカット可能な範囲を表現しています。左右上下方向に一部カットできないエリアが生じます。

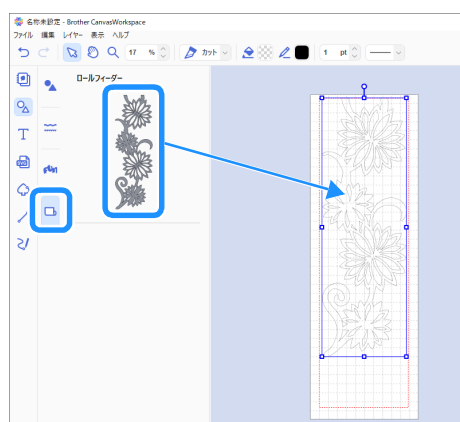


- ① 赤枠

■ カットデータを作成する

CanvasWorkspace で新規にデータ作成したり、外部からデータを読み込んだ後、編集を加えてデータ作成することができます。ここでは、インストールされたサンプル模様編集を加えてデータを作成します。

- 1 オブジェクトパネルから「ロールフィーダー」を選び、模様を選択して、編集領域ヘドラッグ&ドロップします。



お知らせ

- 模様が赤枠内に収まるように位置を調整してください。詳しくは、P.4 「データを作成する」を参照してください。
- 模様をクリックして、編集領域内に配置することもできます。
- スキャンしたデータや本体内蔵模様など、本体側で作成したデータも、ロールフィーダー用データとして使用することができます。CanvasWorkspace にインポートした後、「アートボードサイズ」を「ロール素材」に変更して、FCM 形式に書き出してください。

- 2 サンプル模様を編集します。

お知らせ

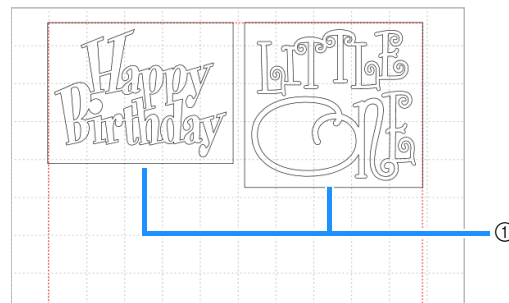
- CanvasWorkspace での編集の仕方について、詳しくは、「ヘルプ」メニューの「オンライン動画チュートリアル...」から確認してください。
- データの先頭に余白を設けておくと、連続してカットする際に、前にカットした模様との間に一定の余白を設けてカットすることができます。

- ▶ カットデータの作成が完了したら、データを書き出すか、本体に転送してください。本体が呼び出せる FCM 形式でデータをパソコン、または USB メモリに書き出すには、P.7 「データを FCM 形式で書き出す」を参照してください。
- データを本体に転送するには、P.8 「データを本体に転送する」を参照してください。

カス取り枠追加機能

模様をカットした後、必要な部分を剥離紙や剥離フィルムに残し、不要部分のみを剥がす作業をカス取りと言います。カス取り枠機能を使用すると、模様の周りに四角のカット線（カス取り枠）を入れることができ、不要部分が剥がしやすくなります。

ここでは、アプリにインストールされている模様を使って説明します。



① カス取り枠

カス取り枠の有無により、下記の違いが生じます。

- カス取り枠なしの場合



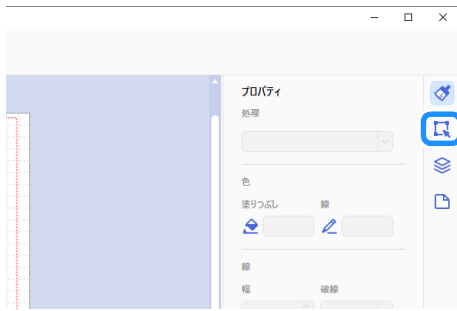
不要部分が大きいまま作業をすると、剥がした素材同士、もしくは剥がした素材と必要な部分とがくっつきあい、作業しづらくなります。

- カス取り枠ありの場合

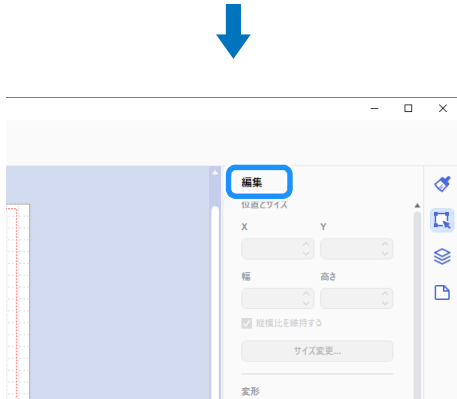


カス取り枠があると、不要部分が細かく分割されるので、作業がしやすくなります。

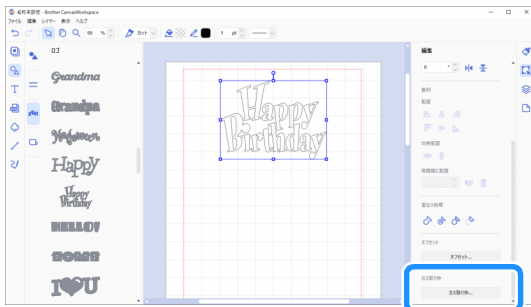
- 1 画面の右端にある「編集」をクリックします。



▶ コントロールパネルの表示が「編集」に切り替わります。



- 2 対象模様を選択して、「カス取り枠...」をクリックします。



▶ カス取り枠設定ダイアログが開きます。

- 3 カス取り枠のサイズの指定方法を選択します。

■「選択したオブジェクトからの間隔を指定する」



数値を入力して、「OK」をクリックします。

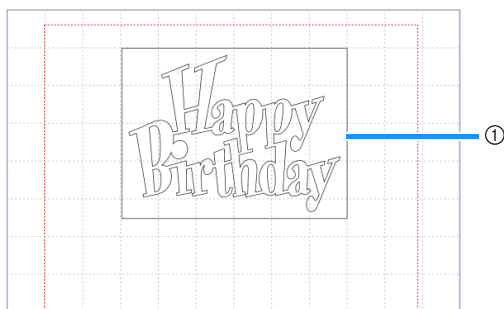
■「矩形サイズを指定する」



数値を入力して、「OK」をクリックします。

- ④ カス取り枠をつけたいオブジェクトごとに、手順②から③を繰り返します。

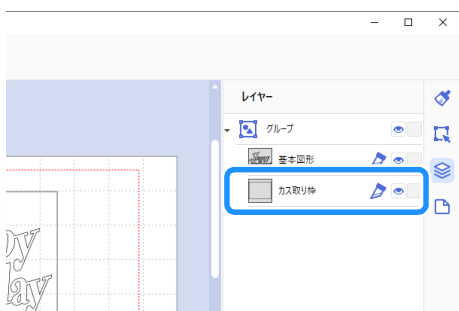
▶ カス取り枠が作成されました。



① カス取り枠

お知らせ

- 作成されたカス取り枠データは、模様データとは別レイヤーで保存されます。



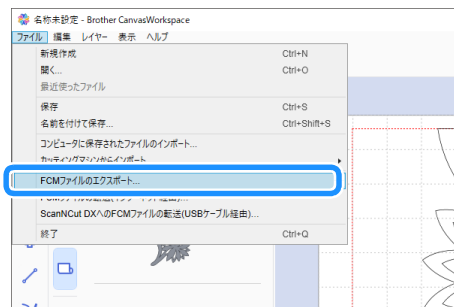
データを FCM 形式で書き出す

パソコン、または USB メモリーにデータを FCM 形式で保存して、USB メモリー経由で本体にデータを送ります。

- ▶ CanvasWorkspace から本体に直接データを転送するには、P.8 「データを本体に転送する」を参照してください。

■ USB メモリーに保存する

- ① USB メモリーをパソコンの USB ポートに差し込みます。
- ② CanvasWorkspace の「ファイル」メニューから「FCM ファイルのエクスポート...」を選択します。



お願い

- ロールフィーダー用のデータとして書き出すには、データ編集時に「アートボードサイズ」を「ロール素材」にしておく必要があります。データを書き出す前に、再度確認してください。詳しくは、P.4 「データを作成する」を参照してください。

- ③ 保存先に「USB ドライブ (*)」を選択し、「保存」を選択します。

* お使いの OS により、表記は異なります。



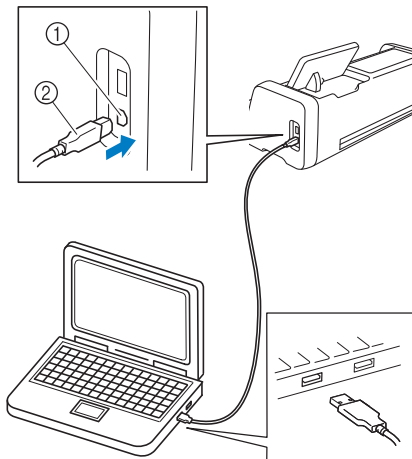
- ▶ USB メモリーに FCM 形式でデータが保存されます。

データを本体に転送する

CanvasWorkspace で開いているデータを、本体側で呼び出すことができる FCM 形式で、本体に転送します。

■ USB ケーブル経由で本体に転送する (Windows のみ対応)

- 1 本製品とパソコンの USB ポートコネクタに USB ケーブルを差し込みます。



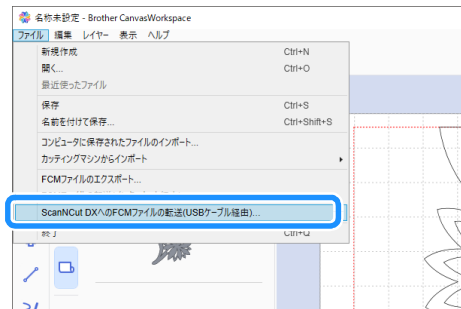
- ① パソコン用 USB ポートコネクタ
- ② USB ケーブル

💡 お願い

- USB ケーブルは、差し込む向きが決まっています。うまく差し込めない場合は、無理に差し込まず、向きを確認してください。
- ロールフィーダー用のデータを本体に転送するときは、本体でホーム画面が表示されている必要があります。



- 2 CanvasWorkspace の「ファイル」メニューから「ScanNCut DX への FCM ファイルの転送 (USB ケーブル経由)...」を選択します。



- ▶ 本体にデータが転送された旨のメッセージが表示されるので、内容を確認して、「OK」をクリックします。

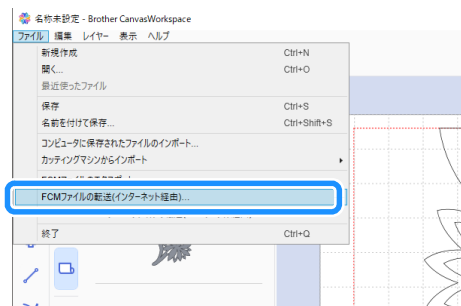
💡 お願い

- ロールフィーダー用のデータとして転送するには、データ編集時に「アートボードサイズ」を「ロール素材」にしておく必要があります。データを転送する前に、再度確認してください。詳しくは、P.4 「データを作成する」を参照してください。

■ 無線 LAN 経由で本体に転送する

- インターネット接続が必要です。
- 本体を無線 LAN に接続する必要があります。CanvasWorkspace への接続が完了した場合のみ、この機能が利用できます。詳しい接続方法については、カッティングマシン本体の『無線 LAN 接続ガイド』を参照してください。

- 1 CanvasWorkspace の「ファイル」メニューから「FCM ファイルの転送 (インターネット経由)...」を選択します。



- ▶ 本体にデータが転送された旨のメッセージが表示されるので、内容を確認して、「OK」をクリックします。

💡 お願い

- ロールフィーダー用のデータとして転送するには、データ編集時に「アートボードサイズ」を「ロール素材」にしておく必要があります。データを転送する前に、再度確認してください。詳しくは、P.4 「データを作成する」を参照してください。

ロールフィーダーを取りつける

ロールフィーダーを装着してカットするためには、マシン本体の準備と、マシン本体へロールフィーダー及び素材を取り付けるための準備が必要です。

本体にロールフィーダーベースを取り付ける

- ① ホーム画面の > を押して、次の画面を表示します。



お知らせ

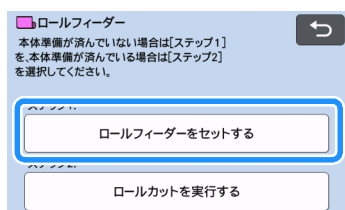
- ロールフィーダー使用時には、ホーム画面から「データ呼び出し」、「テスト」機能を使うことはできません。「ロールフィーダー」を選択し、それぞれの機能をお使いください。(P.15, P.18)
- ロールフィーダー使用時には、「スキャン」機能は使用できません。

- ② 「ロールフィーダー」を選択します。

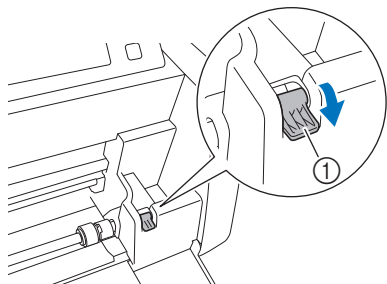


お知らせ

- 「ロールフィーダー」を選択した後、以下の画面が表示されます。「ロールフィーダーをセットする」を選択すると、ロールフィーダー取り付けに関するガイダンスを確認することができます。



- ③ 本体右側のシャフト解放レバーを下げます。

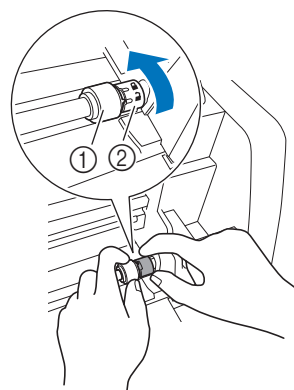


- ① シャフト解放レバー

- ▶ シャフト右側のみが上がり、シャフトのロックが解放されます。

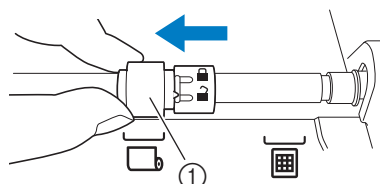
- ④ ロールーとロールーロックダイヤルをつまみ、ロールーは固定したまま、指針が解除の位置 (解除マーク) になるようにロールーロックダイヤルを奥側に回します。

- ▶ ロールーがスライドできるようになります。



- ① ロールー
② ロールーロックダイヤル

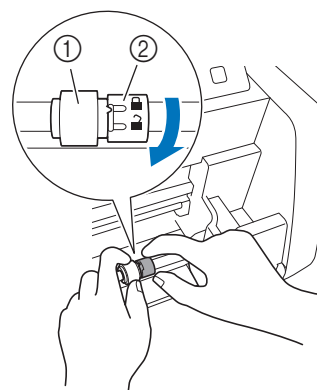
- ⑤ ロールーを罫マークから罫マークへスライドさせます。



- ① ロールー

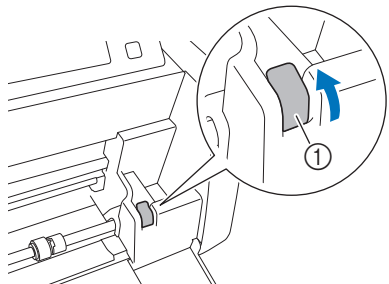
- ⑥ ロールーとロールーロックダイヤルをつまみ、ロールーは固定したまま、指針がロックの位置 (ロックマーク) になるようにロールーロックダイヤルを手前に回します。

- ▶ ロールーが固定されます。



- ① ロールー
② ロールーロックダイヤル

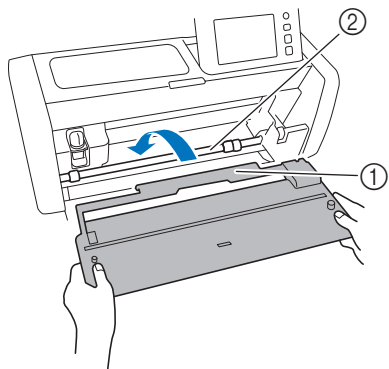
7 本体右側のシャフト解放レバーを戻します。



① シャフト解放レバー

▶ シャフト右側のみが下がり、シャフトがロックされます。

8 ロールフィーダーベースの先端がシャフトに引っかかるように取り付けます。



① ロールフィーダーベース

② シャフト

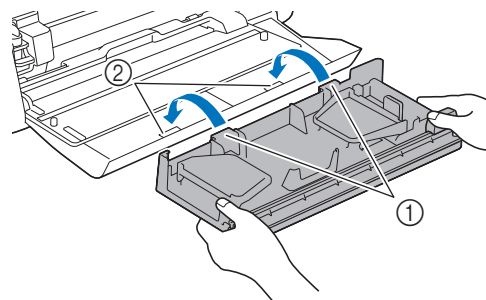


お願い

- ローラーが正しい位置に調整されていないと、正しく装着できません。ローラーが、ロールフィーダー使用時の位置に調整されていることを確認してください。
- シャフトにしっかりと押し付けてください。
- フロントトレイカバーから浮いていないことを確認してください。

ロールホルダーをセットする

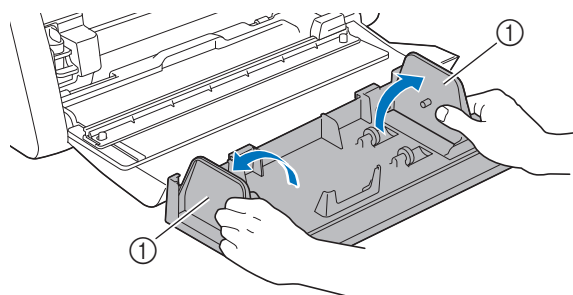
1 ロールホルダーのフックが、フロントトレイカバーの穴に引っかかるように上から取り付けます。



① ロールホルダーのフック

② フロントトレイカバーの穴

2 ロールホルダーの両端にあるガイドプレートを外側に向かって直立させます。

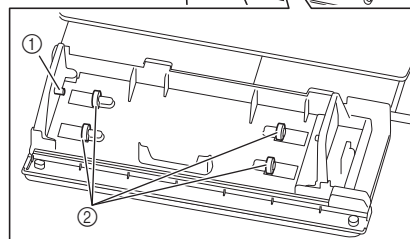
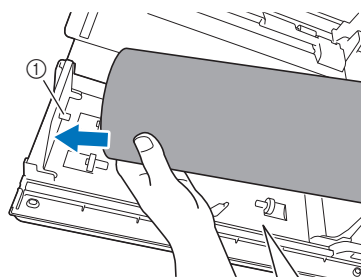


① ガイドプレート

ロールフィーダーに素材をセットする

1 左側のガイドプレートの突起が素材の筒の中に入るように素材を差し込み、4ヶ所のサポートローラーの上に置きます。

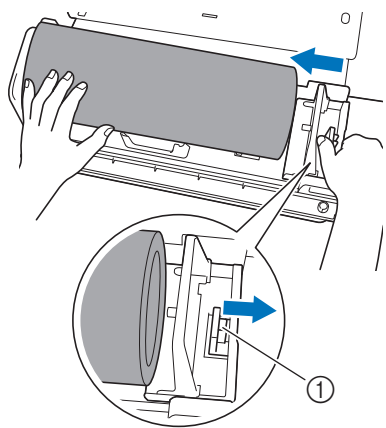
このとき、素材の先端を上から回して引き、カットする面が表側にくるように設置されていることを確認します。



① ガイドプレートの突起

② サポートローラー

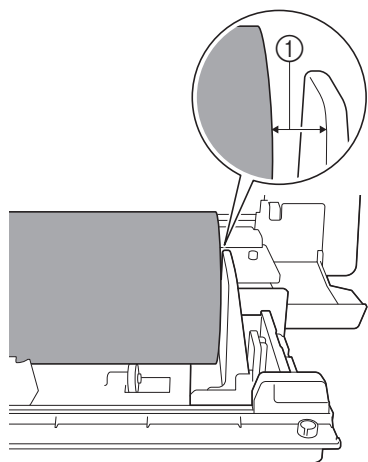
- ② 調整レバーをつまみながら、右側のガイドプレートをスライドさせ、素材を左寄せにします。



① 調整レバー



- 素材の右端とガイドプレートの間に2～3 mm ぐらいの隙間があるのが、適切な設置位置です。素材を左寄せにした後、調整してください。

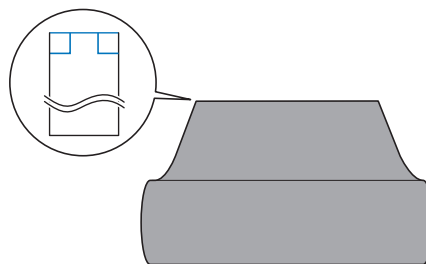


① 2～3 mm ぐらいの隙間

素材の先端を確認する

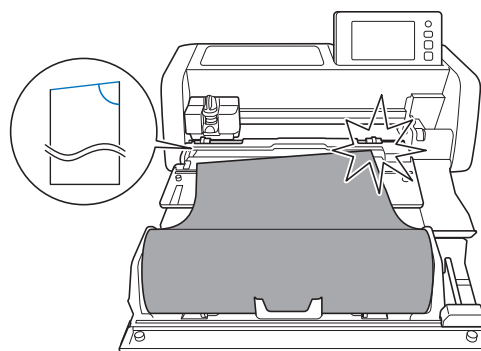
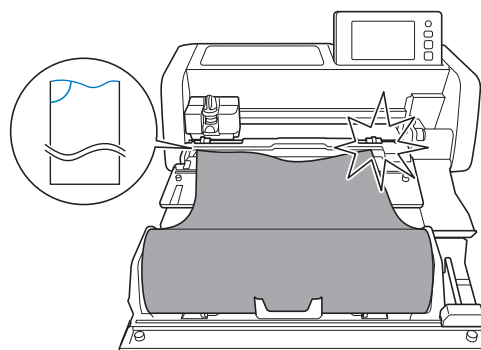
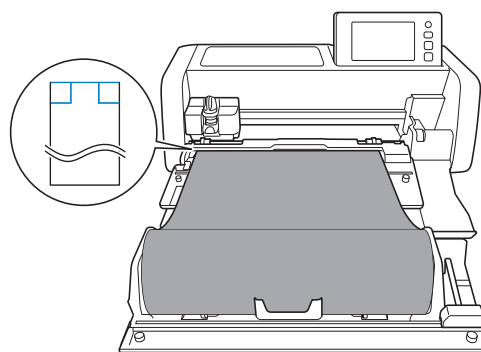
素材の先端が、下記の条件を共に満たして切り揃えられていることを確認します。

- ① まっすぐであること
- ② 素材の両端それぞれに対して直角であること

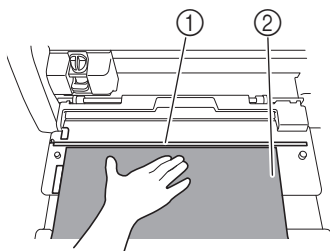


上記① ②を共に満たしていないと、素材を正しく搬送できないことがあります。

素材を搬送する前には必ずご確認ください。



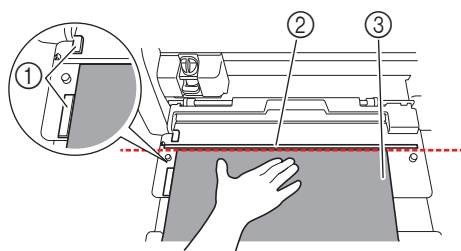
- 1 素材の先端をガイド溝の位置まで引き出します。**
- カットする面が表側になっていることを確認してください。



- ① ガイド溝
② 素材

- 2 素材の左端をロール素材ガイドに沿わせた状態で、先端がガイド溝の直線に揃っていることを確認します。**

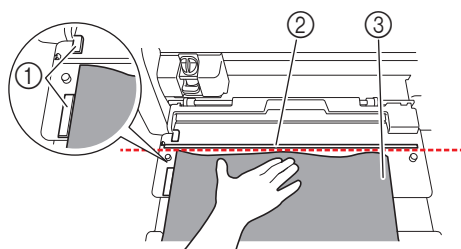
- 揃っている場合
素材の先端はまっすぐ直角に揃っています。先端を切り揃える必要はありません。



- ① ロール素材ガイド
② ガイド溝
③ 素材

▶ 素材をそのまま本体にセットしてください。詳しくは、P.14 「素材を挿入する」を参照してください。

- 揃っていない場合
素材の先端はまっすぐ直角に揃っていません。先端を切り揃える必要があります。

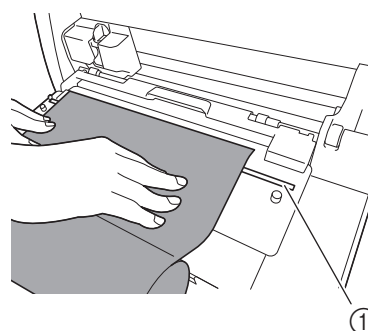


- ① ロール素材ガイド
② ガイド溝
③ 素材

▶ 詳しくは、P.12 「素材の先端を整える」を参照してください。

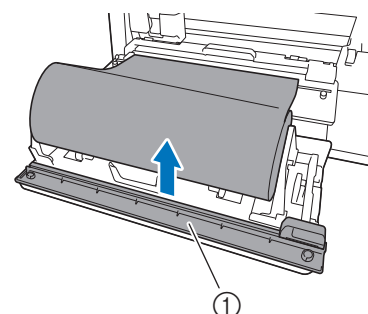
素材の先端を整える

- 1 素材の先端がガイド溝の位置を越えるまで引き出します。**



- ① ガイド溝

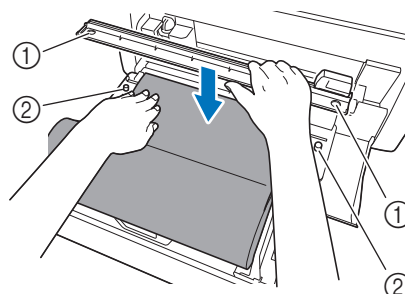
- 2 ロールホルダーからガイドレールを取り外します。**



- ① ガイドレール

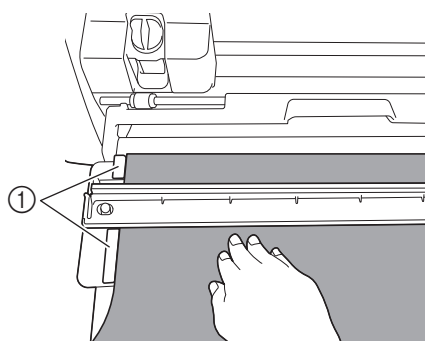
- 3 ガイドレールを素材の上から被せるように取り付けます。**

下記のイラストのように、ガイドレールの穴をロールフィーダーベースの突起に合わせます。



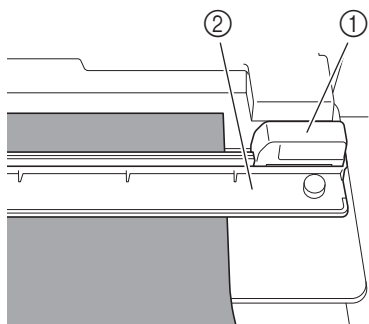
- ① ガイドレールの穴
② ロールフィーダーベースの突起

- 4 素材の左端をロール素材ガイドに沿わせます。**



- ① ロール素材ガイド

- 5** ロールフィーダーカッターがガイドレールの一番右端に位置していることを確認します。



- ① ロールフィーダーカッター
② ガイドレール

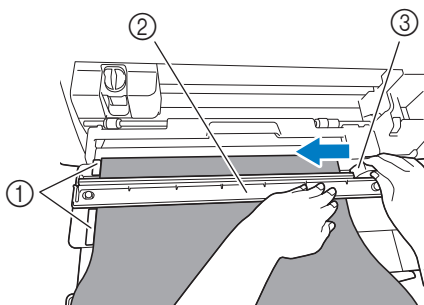


お願い

- ロールフィーダーカッターは、ガイドレールの一番右端に位置した状態からスライドした時にのみ、素材をカットすることができます。一番右端以外の位置からスライドさせてもカットできません。

- 6** 素材の左端をロール素材ガイドに沿わせたまま、右端をガイドレールの上からしっかりと押さえつけます。その状態を保持したまま、ロールフィーダーカッターを右から左へスライドさせ、素材をカットします。

ロールフィーダーカッターを軽く下に押し付けながらスライドさせてください。



- ① ロール素材ガイド
② ガイドレール
③ ロールフィーダーカッター



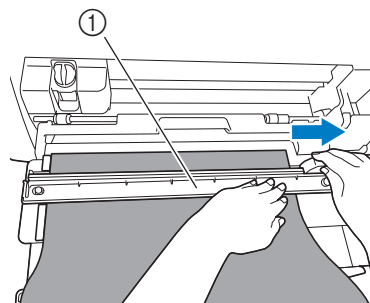
お願い

うまく切れない場合：

- 素材がカッターに引っかかるなど、スムーズに切り始められなかった場合は、無理にスライドさせず、下記を参照して、やり直してください。無理にスライドさせると、破損の原因となります。
 - 素材のコシが弱いものは、素材の右端をガイドレールの上からしっかりと押さえつけます。
 - 素材のコシが強く、素材のカーブが強いものは、ガイドレールの中央部をしっかりと押さえつけます。

- 7** ロールフィーダーカッターを一番右端の位置に戻し、ガイドレールを取り外します。

切り離した素材を取り除きます。

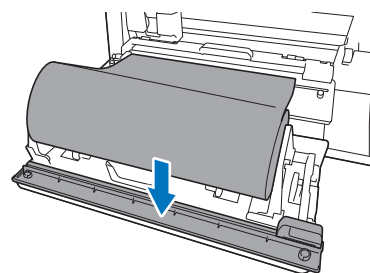


- ① ガイドレール



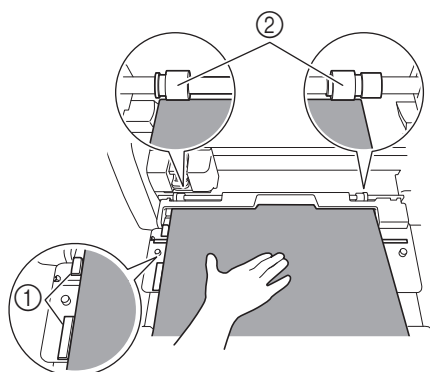
お知らせ

- 外したガイドレールは、ロールホルダーの手前側に取り付けて保管できます。

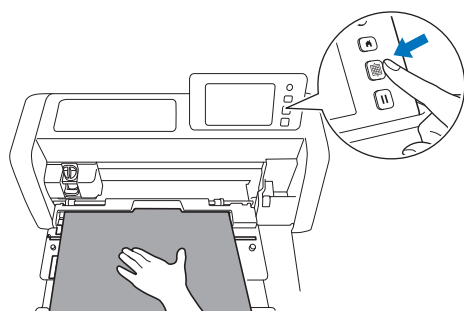


素材を挿入する

- ① 素材の左端をロール素材ガイドに沿わせたまま、左右のローラーの下に軽く差し込みます。素材がローラーに挟み込まれた状態で位置がずれないように手で支えながら、操作パネルの  を押します。



- ① ロール素材ガイド
② ローラー



- ▶ 素材が所定の位置まで送り込まれると、ロールフィーダーの準備は完了します。このとき左右のローラーが、素材の上を完全に踏んでいることを確認してください。

お知らせ

- 紙詰まりを起こした場合は、詰まった紙を取り除いてください。詳しくは、P.30 「素材が本体に詰まったときは」を参照してください。

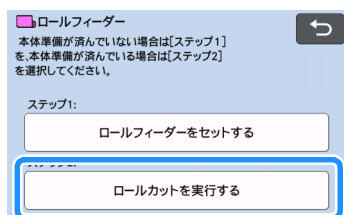
ロールフィーダー用のデータを本体に呼び出してカットする

CanvasWorkspace（PC 版）で作成したデータを本体側に呼び出します。本体側ではデータを編集することや、スキャン機能は使用できません。

データを本体に呼び出す

① ホーム画面で「ロールフィーダー」を選択した後、下記の画面から「ロールカットを実行する」を選択します。

- ホーム画面で「ロールフィーダー」を選択する方法は、P.9「本体にロールフィーダーベースを取り付ける」の手順①から②を参照してください。
- これ以降の画面で  を押すと、この画面に戻ります。

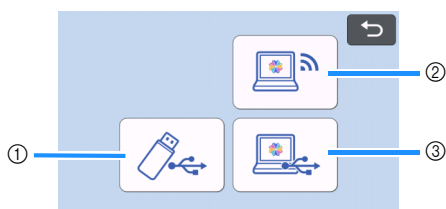


お知らせ

- 素材を挿入した後に、この画面上で 、もしくは本体の  を押した場合、挿入した素材が排出され、ホーム画面に戻ります。素材が挿入されていない場合は、ホーム画面に戻ります。ロールフィーダーを装着した本体で素材をカットしたい場合は、再度「ロールフィーダー」を選択してください。
- USB ケーブルでデータを転送する際、本体がこの画面を表示している場合も、データを受け取ることができます。

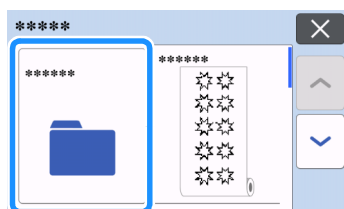
② USB メモリーからデータを呼び出す場合は、本体の USB ポート（USB メモリー用）に USB メモリーを差し込みます。

③ 呼び出したいデータの保存先を選択し、好みの模様を選択します。



① USB メモリーから呼び出す

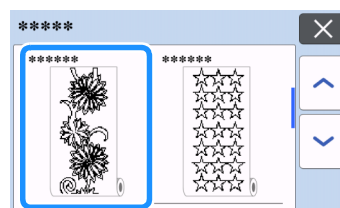
- USB メモリーにフォルダーがある場合、フォルダーを押すと、フォルダー内の模様が表示されます。
- たくさんのフォルダーや模様がある場合、矢印キーを押して画面表示を上下にスクロールしてください。



お知らせ

- USB メモリーの認識に時間がかかる場合があります。USB メモリー挿入後、5 ～ 6 秒ほど待ってからキーを操作してください。（この時間は USB メモリーによって異なります）
- アクセシビリティ付きの USB メモリーを使用している場合は、アクセシビリティの点滅が終了するまでお待ちください。
- もしエラーが表示された場合は、もう一度  を押してください。

▶ 呼び出す模様を選択して、データ確認画面を表示します。



お知らせ

- ロールフィーダー用のデータのみが表示されます。
- 模様の大きさに限らず、模様の先頭から 610 mm (24") までの範囲が表示されます。

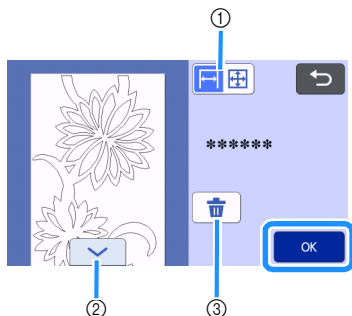
② CanvasWorkspace から呼び出す（無線 LAN 経由）

▶ 模様レイアウトのプレビュー画面を表示します。プレビュー画面について、詳しくは、P.16 「カットする」の手順②を参照してください。

③ CanvasWorkspace から呼び出す（USB ケーブル経由）

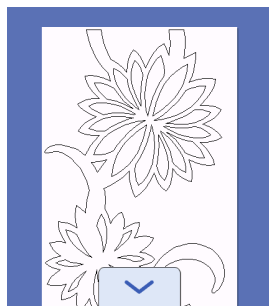
▶ 模様レイアウトのプレビュー画面を表示します。プレビュー画面について、詳しくは、P.16 「カットする」の手順②を参照してください。

4 データを確認して「OK」キーを押します。

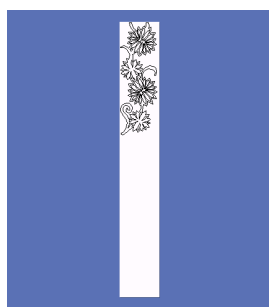


① 模様の表示を切り替えます。

 を選択した場合は、模様を 12 インチ領域で拡大表示します。



 を選択した場合は、模様の全体を縮小させて表示します。



② 模様表示を下にスクロールします。

③ データを削除します。

▶ プレビュー画面が表示されます。

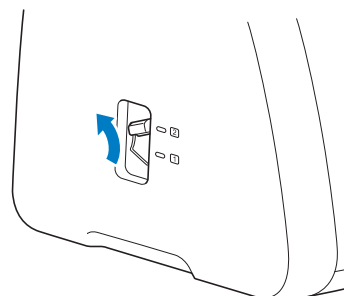
お知らせ

- 縮小表示をした時は、実際の模様の大きさに限らず、最大カット可能長さの 1,785 mm (70.3") で表示されます。模様が 1,785 mm (70.3") より小さい場合は、余白を含めて表示されますが、実際には、模様の下端でカットが終わりま。余白部分はカットデータとして認識されません。

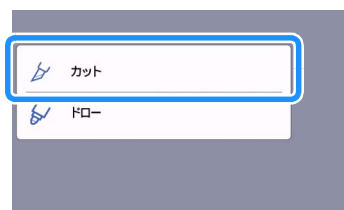
カットする

- 本体のキャリッジに自動調整用替え刃ホルダーが取り付けられていることを確認してください。使用できるブレードホルダーについて、詳しくは、P.36 「使用できるブレード」を参照してください。

① 本体左横のスキャナー昇降レバーの位置を「2」に上げます。



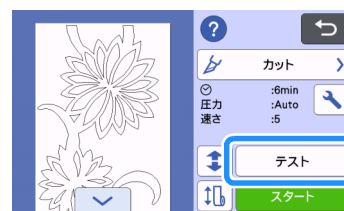
② プレビュー画面で「カット」を選択します。



-  を押すと、ロールフィーダー取り付けに関するガイダンスを確認することができます。

③ 試し切りの設定をするには、「テスト」キーを押します。

- きれいにカットするために、模様のカットを行う前に、試し切りを行ってください。詳しくは、P.18 「試し切りをする」を参照してください。



お知らせ

- ロールフィーダー使用時は、自動でハーフカットの設定になっています。 を押して確認することができます。詳しくは、P.19 「カット圧力を変更する手順」の手順 ④ を参照してください。

4 お試し搬送するには、を押します。

- 詳しくは、P.20 「お試し搬送をする（トライアルフィード）」を参照してください。



5 カットの開始位置を変更するには、を押します。

- 詳しくは、P.21 「カット開始位置を変更する」を参照してください。

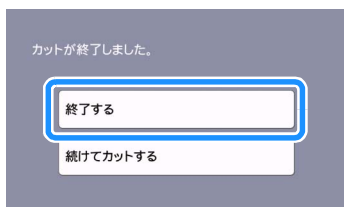


6 「スタート」キーを押して、カットを開始します。



▶ カットが完了すると、模様の下端で停止します。

7 カットし終わった位置で、素材を切り離したい場合は、「終了する」を選択します。



- ▶ 素材が移動する案内が表示されます。内容を確認して、「OK」キーを押します。
- ▶ 模様の下端辺りがロールフィーダーベースのガイドレール位置に来るように素材が移動します。

お知らせ

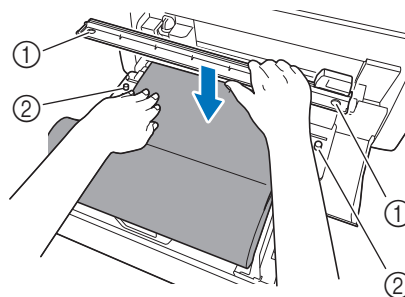
- 「続けてカットする」を選択すると、素材を切り離さずに、続けて模様をカットすることができます。詳しくは、P.22 「連続してカットする」を参照してください。

▶ 素材を切り離す案内が表示されます。

-  を押すと、ガイダンスを確認することができます。

8 ガイドレールを素材の上から被せるように取り付けます。

ガイドレールの穴をロールフィーダーベースの突起に合わせます。

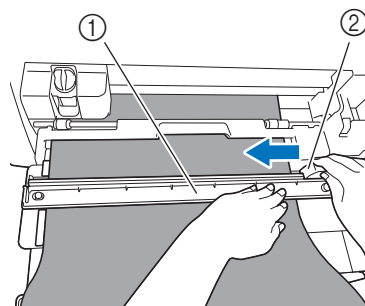


- ① ガイドレールの穴
- ② ロールフィーダーベースの突起

9 素材の右端をガイドレールの上からしっかりと押さえつけます。その状態を保持したまま、ロールフィーダーカッターを右から左へスライドさせ、素材をカットします。

ロールフィーダーカッターを軽く下に押し付けながらスライドさせてください。

- このとき、模様の下端から 10 mm (0.4") の余白を残して、素材を切り離すことになります。
- 素材を切り離す前に、作業を中断して素材を取り出したい場合は、を押すと、素材が手前に排出されます。



- ① ガイドレール
- ② ロールフィーダーカッター



お願い

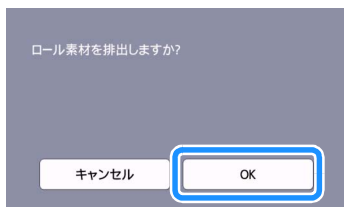
うまく切れない場合：

- 素材がカッターに引っかかるなど、スムーズに切り始められなかった場合は、無理にスライドさせず、下記を参照して、やり直してください。無理にスライドさせると、破損の原因となります。
 - 素材のコシが弱いものは、素材の右端をガイドレールの上からしっかりと押さえつけます。
 - 素材のコシが強く、素材のカールが強いものは、ガイドレールの中央部をしっかりと押さえつけます。

- 10 素材を切り離したら、内容を確認して「OK」キーを押します。



- 11 切り離した素材を排出するために、「OK」キーを押します。

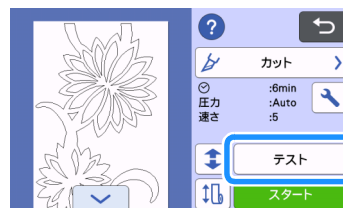


▶ 切り離した素材が、実機の奥側に排出されます。

試し切りをする

作品に使用する素材を使って、きれいにカット、ドローできることをテスト加工をして確認してください。ここでは、カットの確認である試し切りについて説明します。

- 1 カット画面で「テスト」キーを押します。



▶ テスト加工画面に、テスト模様が自動的に配置されます。

- 2 テスト模様がプロジェクトの模様にな重なっていないことを確認します。テスト模様の位置を変更するには、

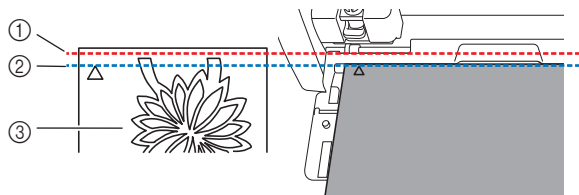
を押します。画面上でテスト模様をドラッグしても移動できます。



- ① 模様配置の変更
模様の配置を変更する場合は、このキーを押して編集画面で調整してください。
配置の変更を設定すると、次回テスト加工をする際、同じ場所に模様が自動配置されます。
- ② 模様の形や大きさを調整します。
形や大きさの変更を設定すると、次回試し切りをする際、同じ形や大きさの模様が自動配置されます。

お知らせ

- テスト模様は、初期設定ではカットエリアの左上に配置されます。
- 素材を挿入したまま、試し切りの結果を確認したい場合は、初期設定よりも下にテスト模様を配置する必要があります。



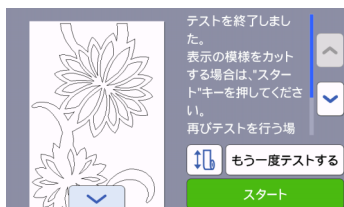
- ① カット可能エリアの上端
- ② 初期設定時にテストカット模様が配置されるライン
- ③ テスト加工のプレビュー画面

3 「スタート」キーを押して、カットを開始します。



お知らせ

- ローラーフィーダー使用時は、自動でハーフカットの設定になっています。
- カットが完了すると、以下の画面が表示されます。



試し切りの結果を確認します。

詳しくは、P.19 「試し切りの結果を確認する」を参照してください。

- 「スタート」キーを押すと、プロジェクトの模様のカットを開始します。カット終了後は、P.16 「カットする」の手順 ⑦ からを参照してください。
- 「もう一度テストする」キーを押すと、もう一度試し切りを行います。詳しくは、P.19 「カット圧力の設定値を変更する」を参照してください。
- を押すと、お試し搬送を行います。詳しくは、P.20 「お試し搬送をする（トライアルフィード）」を参照してください。

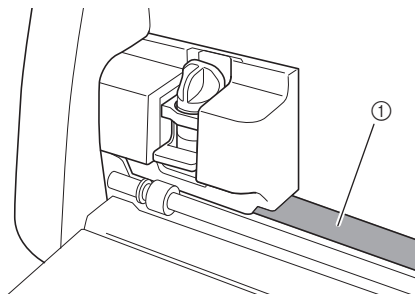
■ 試し切りの結果を確認する

試し切りの結果を確認して、カット圧力を調整します。

素材がきれいにカットできるまで、試し切りを繰り返してカット圧力を調整してください。

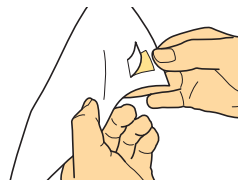
お願い

- 刃が素材を貫通してしまった場合は、刃先が落ちる本体の表面部分 ① にカット跡がついてしまっている可能性があります。その場合は適切なカットを行うことができます。お買い上げの販売店またはお客様相談室にご相談ください。



□ 適切なカット圧力

表面の素材がきれいにカットされ、裏面の剥離紙がカットされていないのが、適切なカット圧力になります。



お知らせ

- ハーフカットされた素材を剥離紙、もしくは剥離フィルムからはがす際には、スパチュラ & フック (CASPHK1) のフックをお使いいただくと便利です。スパチュラ & フック (CASPHK1) のお買い求めは本製品をお買い上げの販売店にお問い合わせください。

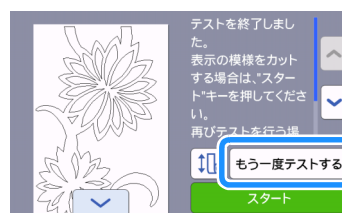
■ カット圧力の設定値を変更する

ハーフカットに適切なカット圧力を自動で設定しますが、素材の種類によっては、カットがうまくいかない場合があります。きれいにカットできなかった場合は、以下に従って、圧力の設定値を調整してください。刃が素材を貫通してしまう可能性があるため、設定値は1回上げるごとに試し切りをして確認してください。

試し切りの結果	調整方法
模様の一部がカットされていない。	圧力が弱い：設定画面で  を1回押して圧力を上げてください。
模様全体がカットされていない。	圧力が弱い：設定画面で  を1回押して圧力を上げてください。
裏面の剥離紙までカットされている。	圧力が強い：設定画面で  を1回押して圧力を下げてください。

□ カット圧力を変更する手順

- 1 試し切りが終わった後に表示される以下の画面で「もう一度テストする」キーを押して、テスト加工画面を表示させます。



- 2 を押して、テスト模様の位置を別の場所に移動させます。画面上でテスト模様をドラッグしても移動できます。

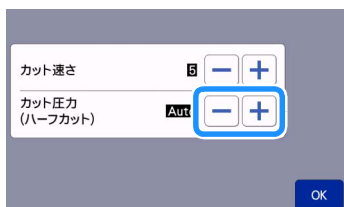


- 3 テスト加工画面の  を押して、設定画面を表示します。



- 4  または  を押して、ハーフカットの圧力を調整します。

調整が完了したら、「OK」キーを押します。



- 5 テスト加工画面で設定が変更されたことを確認し、試し切りをやり直します。



お願い

- 圧力を上げすぎないように注意してください。刃が折れるおそれがあります。圧力を上げすぎると、素材がきれいにカットできません。

お試し搬送をする (トライアルフィード)

実際にカットをすることなく、素材がまっすぐに搬送できるか、素材の長さがカット模様の長さに足りているかを事前に確認することができます。問題なく搬送できることを確認するため、お試し搬送中はその場を離れないでください。

お知らせ

- 素材の残りの長さが少なくなったときに、素材の後端がロールの芯にテープ止めされている場合は、テープをはがしてください。

- 1 本体左横のスキャナー昇降レバーの位置が「2」に上がっていることを確認します。

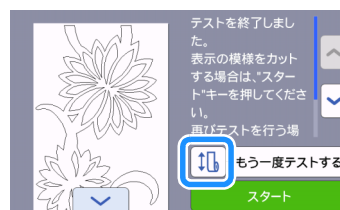
詳しくは、P.16 「カットする」を参照してください。

- 2 カット画面で  を押します。



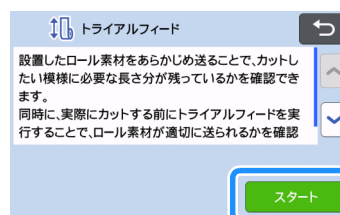
お知らせ

- 試し切りが終わった後に表示される以下の画面で  を押すこともできます。



- 3 素材がロールフィーダーにセットされていることを確認してください。「スタート」キーを押して、お試し搬送を開始します。

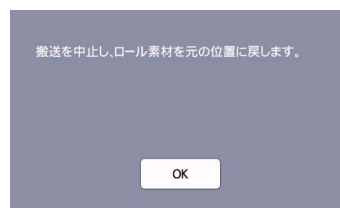
- 詳しくは、P.14 「素材を挿入する」を参照してください。



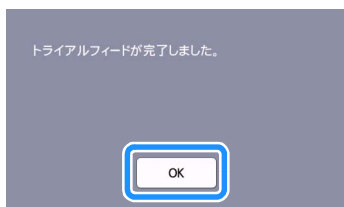
▶ 素材が搬送されます。

お知らせ

- お試し搬送中に  を押すと、搬送が中止され、以下の画面が表示されます。



- 4 お試し搬送が終わると、以下の案内が表示されます。
「OK」キーを押して、元の画面に戻ります。



- ▶ 適切に搬送され、素材の長さがカット模様の長さに足りている場合は、模様の長さ分だけ搬送し、搬送開始位置まで戻ります。
素材の長さがカット模様の長さに足りていない場合は、搬送開始位置に戻りません。

お知らせ

- 素材が本体に詰まった場合は、詰まった素材を取り除いてください。詳しくは、P.30 「素材が本体に詰まったときは」を参照してください。
- 素材のカールが強いと、うまく搬送できない場合があります。その場合は、素材のカールを直してから挿入してください。

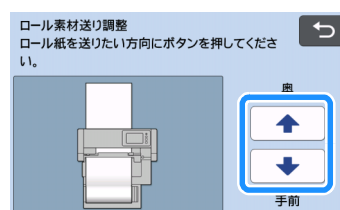
カット開始位置を変更する

カット開始位置を上下方向（送り方向）のお好みの位置まで移動させることができます。

- 1 カット位置を変更する場合は、を押します。

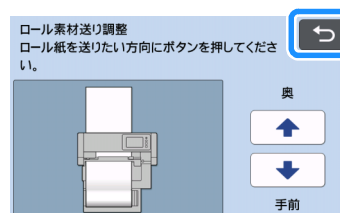


- 2 素材を送りたい方向に  または  を押します。



-  「奥」：素材が本体の後方に向かって搬送されます。
 「手前」：素材が本体の手前方向に向かって搬送されます。

- 3  を押すと、手順 1 の画面に戻ります。



お願い

-  または  を押している間、素材が搬送され続けます。
- 奥方向に搬送する際は、素材の後端まで搬送すると、素材がローラーから外れます。素材がローラーから外れた場合は、素材を再度挿入してください。詳しくは、P.14 「素材を挿入する」を参照してください。
- 手前方向に搬送する際は、素材の先端がローラーの真下に来ると、搬送が止まります。

連続してカットする

模様をカットした後、素材を切り離さずに続けて同じ模様、もしくは別の模様をカットすることができます。

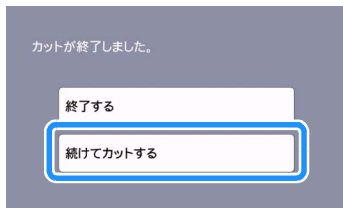


お願い

- 一度の挿入でカットできる素材の最大の長さ（送り方向）は、1,785 mm (70.3") (*) です。それ以上の長さをカットをする場合は、素材を切り離して排出した後、再度素材を挿入してカットしてください。
* 当社指定の素材、使用条件によります。素材の種類、ご使用方法によっては、カットがうまくいかない場合があります。

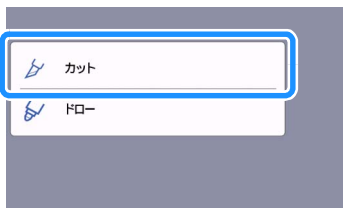
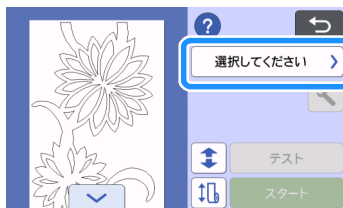
■ 同じ模様を繰り返しカットする

- 1 「続けてカットする」を押します。



▶ プレビュー画面が表示されます。

- 2 プレビュー画面で「カット」を選択し、「スタート」キーを押して、カットを開始します。



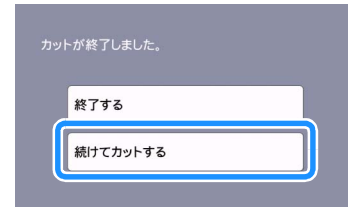
- ▶ 表示されている模様がカットされます。
- ▶ 直前にカットした模様の下端あたりの位置からカットを開始します。

お知らせ

- カット開始位置を変更したい場合は、P.21 「カット開始位置を変更する」を参照してください。
- カットデータ作成時にカットデータの先頭に余白を入れることで、カット開始位置を調整することもできます。詳しくは、P.5 「カットデータを作成する」を参照してください。

■ 別の模様を続けてカットする

- 1 「続けてカットする」を押します。



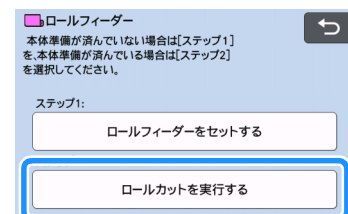
▶ プレビュー画面が表示されます。

- 2 プレビュー画面で「戻る」を押します。



- ▶ 「戻る」を押すと「表示中のデータが削除されますが、よろしいですか？」とメッセージが表示されます。「OK」キーを押します。

- 3 「ロールカットを実行する」を選択して、別の模様を呼び出します。



- 詳しくは、P.15 「データを本体に呼び出す」を参照してください。

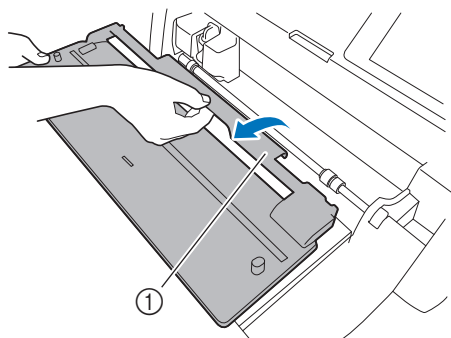
お知らせ

- カット開始位置を変更したい場合は、P.21 「カット開始位置を変更する」を参照してください。
- カットデータ作成時にカットデータの先頭に余白を入れることで、カット開始位置を調整することもできます。詳しくは、P.5 「カットデータを作成する」を参照してください。

ロールフィーダーを取り外してマット搬送に戻す

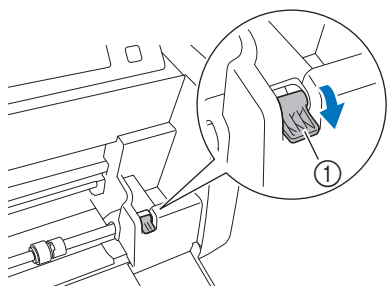
素材をマットに貼ってカットしたい場合は、必ず行ってください。

- ① ロールフィーダーベースを持ち上げ、本体から取り外します。



① ロールフィーダーベース

- ② 本体右側のシャフト解放レバーを下げます。

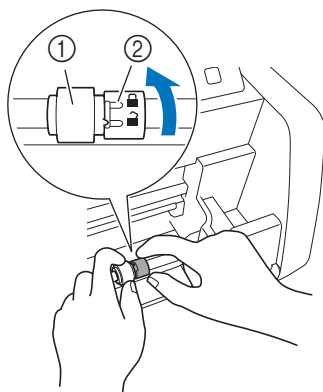


① シャフト解放レバー

▶ シャフト右側のみが上がり、シャフトのロックが解放されます。

- ③ ロールとロールロックダイヤルをつまみ、ロールは固定したまま、指針が解除の位置 (🔓) になるようにロールロックダイヤルを奥側に回します。

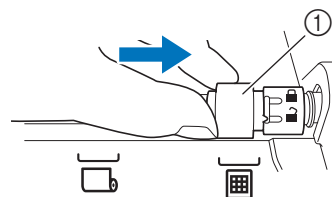
▶ ロールがスライドできるようになります。



① ロール

② ロールロックダイヤル

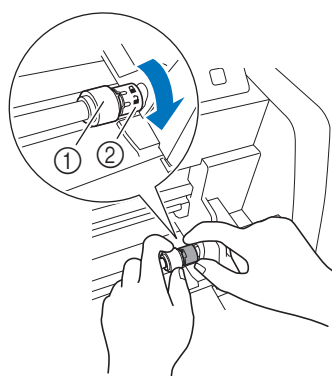
- ④ ロールを🔓マークから🔒マークへスライドさせます。



① ロール

- ⑤ ロールとロールロックダイヤルをつまみ、ロールは固定したまま、指針がロックの位置 (🔒) になるようにロールロックダイヤルを手前に回します。

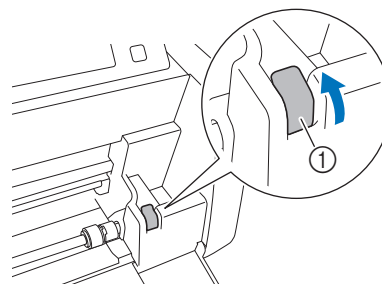
▶ ロールが固定されます。



① ロール

② ロールロックダイヤル

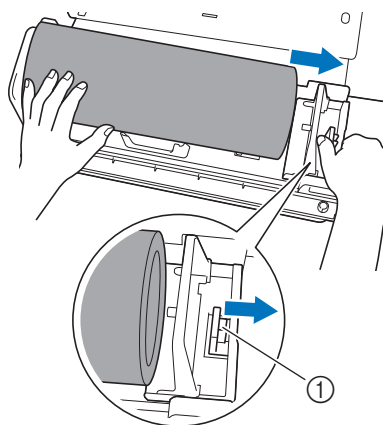
- ⑥ 本体右側のシャフト解放レバーを戻します。



① シャフト解放レバー

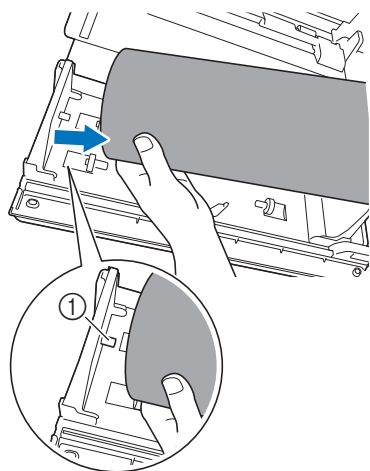
▶ シャフト右側のみが下がり、シャフトがロックされます。

- 7** 調整レバーをつまみながら、右側のガイドプレートをスライドさせます。



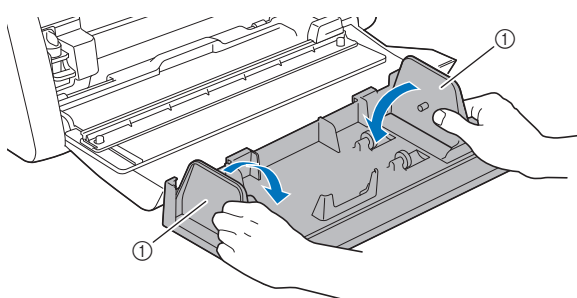
① 調整レバー

- 8** ロールホルダーのガイドプレートの突起に引っかからないように注意しながら、素材を取り外します。



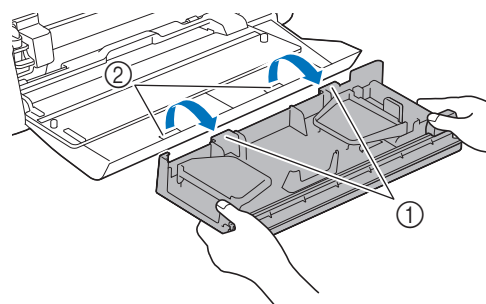
① ガイドプレートの突起

- 9** 左右のロールホルダーのガイドプレートを内側に折りたたみます。



① ガイドプレート

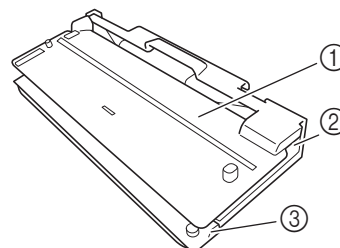
- 10** ロールホルダーを上を持ち上げ、フロントカバーの穴からロールホルダーのフックを外します。



- ① ロールホルダーのフック
② フロントトレイカバーの穴

- 11** ロールフィーダーベース、ロールホルダー、ガイドレールを重ねて保管します。

- 持ち運ぶときは、両手でロールホルダーの下をしっかりと支えてください。



- ① ロールフィーダーベース
② ロールホルダー
③ ガイドレール

交換の目安

本製品を安全にご使用いただくため、以下の交換時期を目安にして、消耗品を新しいものに交換してください。ご購入は、お買い上げの販売店またはお客様相談室までお問い合わせください。別売品については詳しくは、カッティングマシン本体の『取扱説明書』もしくは、本書 P.2 を参照してください。

刃

以下の場合に交換してください。

- 切り口が粗くなり、作品の仕上がりの質が劣化したとき
- 切れ味が悪くなったとき
- 刃が欠けたとき（刃の出し量とカット圧力の目安より大きく設定しても切れない場合は、刃が欠けているおそれがあります。）

刃の交換方法、ホルダーの清掃方法について詳しくは、カッティングマシン本体の『取扱説明書』を参照してください。

ロールフィーダーカッター

以下の場合に交換してください。

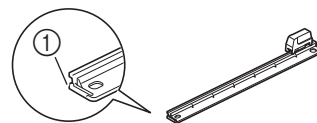
- 切り口が粗くなり、きれいに素材を切り離すことができなくなったりしたとき
- 切れ味が悪くなったとき
- 刃が欠けたとき

お知らせ

- ロールフィーダーカッターを分解しないでください。

ロールフィーダーカッターを交換する

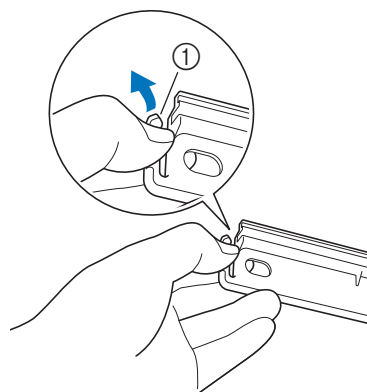
■ ロールフィーダーカッターを取り外す



① 抜け止め

① ガイドレールの左端の抜け止めを下方方向に軽く押し付けたままにします。

- ▶ 抜け止めの位置が下方方向にずれて、ロールフィーダーカッターをガイドレールから取り外せるようになります。

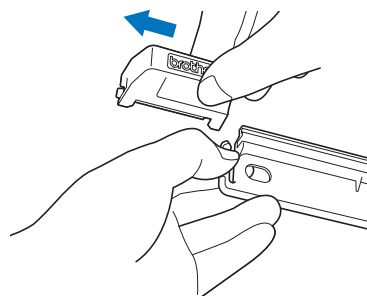


① 抜け止め

お知らせ

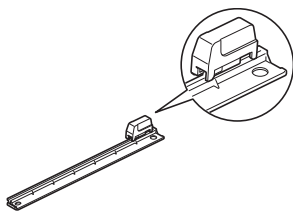
- 抜け止めは強く押さえつけないでください。破損の原因となります。

② ロールフィーダーカッターを左側にスライドさせて、ガイドレールから取り外します。



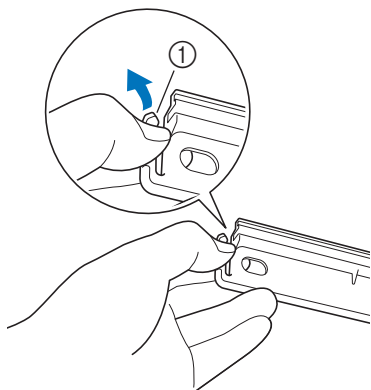
■ ロールフィーダーカッターを取り付ける

ロールフィーダーカッターが正しくついた状態



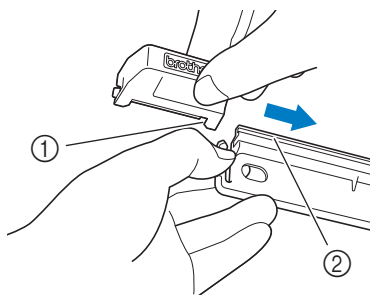
- ①** ガイドレールの左端の抜け止めを下方方向に軽く押し付けたままにします。

▶ 抜け止めの位置が下方方向にずれて、ロールフィーダーカッターをガイドレールに取り付けられるようになります。

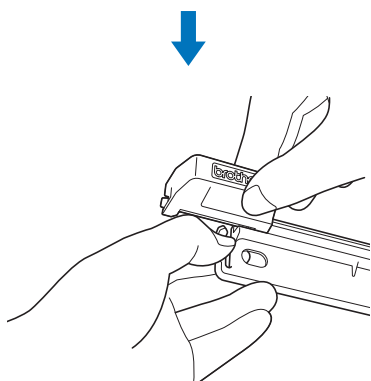


① 抜け止め

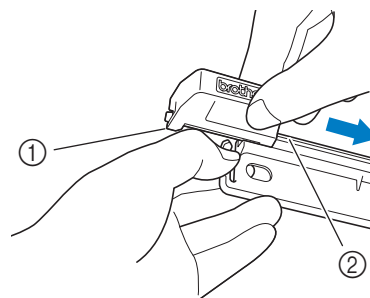
- ②** 下図の向きでロールフィーダーカッターを持ち、右側の突起をガイドレールのレールにはめます。



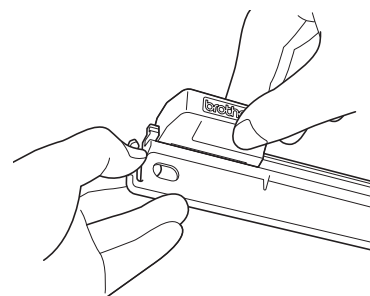
① ロールフィーダーカッターの突起
② レール



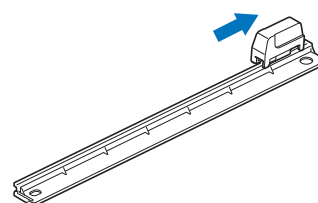
- ③** 左の突起をガイドレールのレールにはめます。



① ロールフィーダーカッターの突起
② レール



- ④** ロールフィーダーカッターを一番右端までスライドさせます。



ロールフィーダーカッターを掃除する

ロールフィーダーカッター内部に素材の切れ端や切りくずがたまると、素材を切れなくなります。定期的にロールフィーダーカッターを掃除してください。

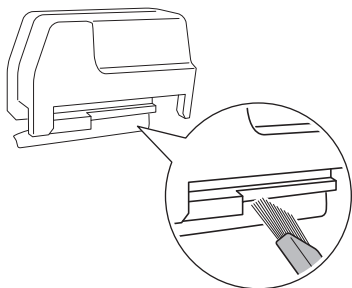
お知らせ

- ロールフィーダーカッターを分解しないでください。

1 ロールフィーダーカッターをガイドレールから取り外します。

- 詳しくは、P.25 「ロールフィーダーカッターを取り外す」の手順を参照してください。

2 市販のブラシを使って、切れ端や切りくずを掃除します。



3 ロールフィーダーカッターをガイドレールに取り付けます。

- 詳しくは、P.26 「ロールフィーダーカッターを取り付ける」の手順を参照してください。

困ったとき

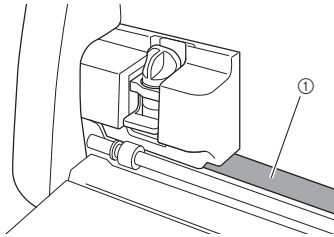
本製品が思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目およびブラザーソリューションセンター（<http://s.brother/cpod/>）の Q&A を確認してください。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店またはお客様相談室にご相談ください。参照ページが「*」のときは、カッティングマシン本体の『取扱説明書』を参照してください。無線 LAN に関するトラブルについては、カッティングマシン本体の『無線 LAN 接続ガイド』を参照してください。

素材

症状	原因（結果）	対処	参照ページ
素材を挿入できない。	素材をセットしたとき、ローラーの下に素材が当たっていない。	素材が左右のローラーの下に当たるようにセットします。	→ P.14
	素材を挿入するとき、  を使用していない。	素材を搬送スロットに軽く当てて、  を押します。	→ P.14
	ローラーの位置が正しくない。	ローラーの位置を調整します。	→ P.9
	シャフトが解放状態になっている。	シャフトをロックします。	→ P.10
	ホーム画面で、「ロールフィーダー」を選択していない。	ホーム画面で「ロールフィーダー」を選択します。	→ P.9
素材がまっすぐに送られない。	素材の先端がまっすぐに切り揃えられていない。	素材の先端をまっすぐに切り揃えます。	→ P.12
	搬送スロットに対して、素材を斜めに差し込んでいる。	素材の左側をロール差込みガイドに沿わせて、まっすぐ差し込み直します。	→ P.14
	ガイドプレートで素材が適切に固定されていない。	ガイドプレートで素材を適切に固定します。	→ P.11
	リアトレイを引き出していない。	リアトレイを引き出します。	→ *
	ローラーの位置が正しくない。	ローラーの位置を調整します。	→ P.9
素材を送ることができない。	本体のスロット周辺に障害物がある。	本体のスロット周辺に素材を排出できるスペースを確保します。	—
	本体を置いている場所が水平でない。	本体を水平で段差のない場所に置きます。	—
素材を排出できない。	本体の送り機構にカット素材が詰まっている。	P.30 「素材が本体に詰まったときは」の手順に従って、詰まっている素材を取り除きます。	→ P.30
	カット終了後、切り離れた素材の長さが短すぎて、排出後に本体内部で止まってしまった。	本体内部で止まって、排出できなくなったカット素材を取り除きます。	→ P.31
素材が詰まった。	素材がまっすぐに搬送されなかった。	P.30 「素材が本体に詰まったときは」の手順に従って、詰まっている素材を取り除きます。素材の先端をまっすぐ直角に切り揃えた後、まっすぐに挿入します。	→ P.30 → P.12 → P.14
素材が意図しない位置に移動してしまっ	- 意図せず、カット開始位置を変更してしまった。 - 模様のカット完了後に適切な操作を選択しなかった。	カット開始位置を変更することで、意図する位置まで素材を移動させることができます。操作パネルの  を押すと、素材を手前に送り、排出することができます。	→ P.21

* 詳しくは、カッティングマシン本体の『取扱説明書』を参照してください。

カット

症状	原因 (結果)	対処	参照ページ
刃の先にカット素材が引っかかる。	ホルダーにクズやほこりがたまっている。	ホルダーを掃除します。	→ *
	刃が消耗している。	新しい刃に交換します。	→ *
	本製品に対応していないカット素材を使用している。	本製品に対応しているカット素材に交換します。	→ P.33 → P.34
操作の途中で本体が停止した。	安全のため、カット中にパネルを押すと本製品は動作を停止します。	画面に表示されるメッセージに従って操作します。「OK」キーを押してキャリッジを元の位置に戻します。素材を差し込んで、操作をやり直します。	—
カット素材がすべて切り取られておらず、切り残しがある。	素材に適している刃を使用していない。	素材に適した刃に交換します。	→ *
	カット圧力を目安より大きく設定しても切れない場合は、刃が欠けているおそれがあります。	新しい刃に交換します。	→ *
	刃が消耗している。	新しい刃に交換します。	→ *
	本製品に対応していない素材を使用している。	本製品に対応しているカット素材に交換します。	→ P.33 → P.34
	「カット圧力 (ハーフカット)」が適切でない。	設定画面で「カット圧力 (ハーフカット)」を調節します。	→ P.19
	ホルダーにクズやほこりがたまっている。	ホルダーを掃除します。	→ *
カット素材の裏面の剥離紙まで切りキズがついている。	「カット圧力 (ハーフカット)」が適切でない。	設定画面で「カット圧力 (ハーフカット)」を調節します。	→ P.19
カット素材がきれいにカットできない。	刃が素材を貫通したため、刃先が落ちる本体の表面部分 (①) にカット跡がついてしまった。 	お買い上げの販売店またはお客様相談室にご相談ください。	—

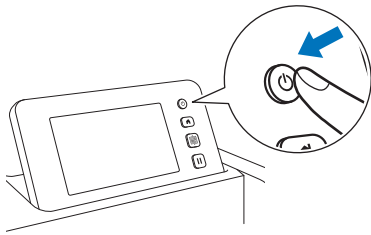
* 詳しくは、カッティングマシン本体の『取扱説明書』を参照してください。

ロールフィーダーカッター

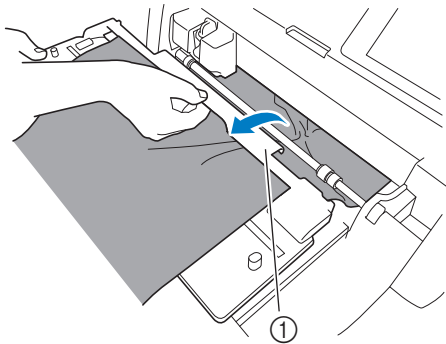
症状	原因 (結果)	対処	参照ページ
素材をきれいにロールフィーダーカッターで切れない。	切り始める時に素材とガイドレールを手でしっかりと固定していない。	素材とガイドレールを手でしっかりと固定して、切り始めます。	→ P.13 → P.17
	カッターにクズやほこりがたまっている。	カッターを掃除します。	→ P.27
	カッターが消耗している。	新しいカッターに交換します。	→ P.25
ロールフィーダーカッターがガイドレールから外れてしまった。	ロールフィーダーカッターがガイドレールの抜け止めを超えてしまった。	正しい取り付け方法に従って、ロールフィーダーカッターを取り付けます。	→ P.26

素材が本体に詰まったときは

- ① 操作パネルの $\odot$ を押し、電源を切ります。

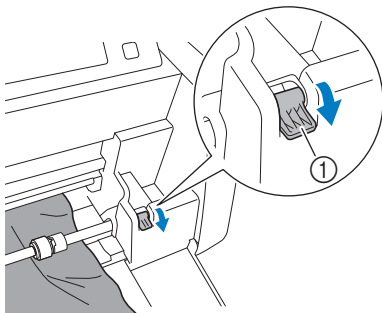


- ② 電源プラグを家庭用電源コンセントから抜きます。
③ ロールフィーダーベースをシャフトから取り外します。



① ロールフィーダーベース

- ④ 本体右側のシャフト解放レバーを下げます。

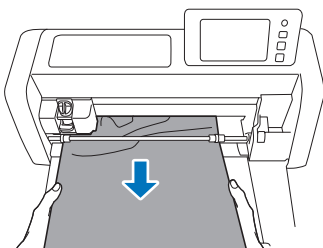


① シャフト解放レバー

- ▶ シャフト右側のみが上がり、シャフトのロックが開放されます。これにより、詰まった素材が取り出しやすくなります。

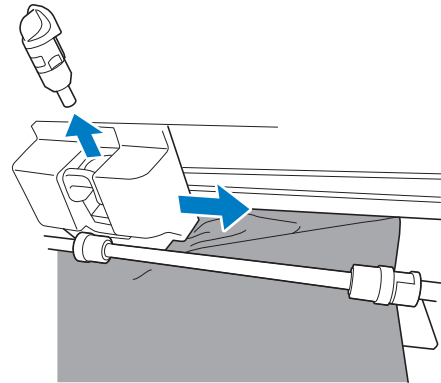
- ⑤ 詰まった素材を取り除きます。

- 素材をゆっくり引き出してください。強く引き出すと、本体内部の部品が故障する原因となります。

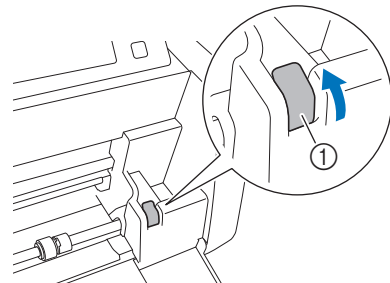


お願い

- キャリッジの下に素材が入り込んで、取り除けなくなった場合は、電源が切れていることを確認し、ホルダーをキャリッジから取り外してから、手でゆっくりキャリッジを移動させて、素材を取り除きます。



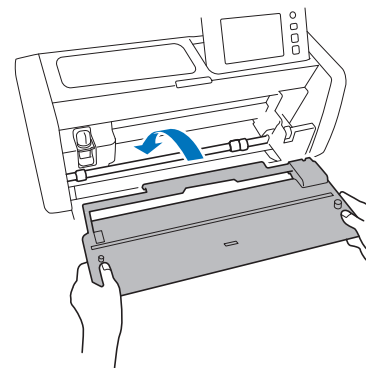
- ⑥ 本体右側のシャフト解放レバーを戻します。



① シャフト解放レバー

- ▶ シャフト右側のみが下がり、シャフトがロックされます。

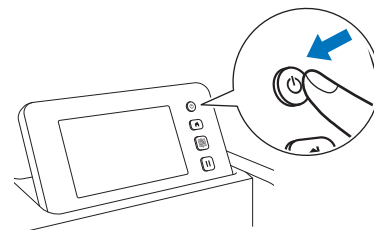
- ⑦ ロールフィーダーベースをシャフトに取り付けます。



- ⑧ 電源プラグを家庭用電源コンセントに差し込みます。

- ⑨ 操作パネルの $\odot$ を押します。

オープニング画面が表示されたら、画面上のどこかを押してください。



■ 素材の詰まりが解消されないときは

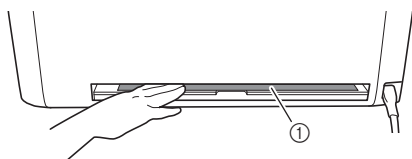
素材の切れ端が、本体背面側に残っている可能性があります。以下の手順に従い、詰まった素材を取り除きます。



お願い

- カット終了後、ロールフィーダーカッターで切り離した素材の長さが短すぎる場合、本体背面から適切に排出されず、本体内部に残ってしまう場合があります。

- 1 操作パネルの⑤を押し、電源を切ります。
- 2 電源プラグを家庭用電源コンセントから抜きます。
- 3 リアトレイを本体から完全に取り外します。
 - リアトレイの取り外し方について、詳しくは、カッティングマシン本体の『取扱説明書』を参照してください。
- 4 詰まった素材があれば、取り除きます。



① 詰まった素材

- 5 リアトレイを本体に取り付けます。
 - リアトレイの取り付け方について、詳しくは、カッティングマシン本体の『取扱説明書』を参照してください。
- 6 電源プラグを家庭用電源コンセントに差し込みます。
- 7 操作パネルの⑤を押します。

オープニング画面が表示されたら、画面上のどこかを押してください。

エラーメッセージ

操作中に表示されるエラーメッセージの一部と、対処方法の一覧です。
メッセージの指示に従うか、この表に記載される対処方法を確認して、必要な操作を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、お買い上げの販売店またはお客様相談室にご相談ください。

カッティングマシン本体のエラー

エラーメッセージ (本体)	原因／対処
データを読み込めませんでした。 このデータを使用する場合は、ホーム画面から「ロールフィーダー」を選択してください。	ロールフィーダー用のデータを読み出す手順に誤りがあります。正しい手順でデータを読み出してください。(P.15)
ロール素材が挿入されていません。 操作パネルの  を押して、ロール素材を挿入してください。	素材が挿入されていません。 素材を挿入後、「スタート」キーを押してください。(P.14)
ロール素材の挿入角度が正しくありません。 ロール素材を排出します。	カット/ドロウ中に素材が正しく搬送されませんでした。 素材の左端をロール素材ガイドに沿わせて、まっすぐ差し込み直します。(P.14)
シャフト解放レバーが下がっています。 シャフト解放レバーを上げて、シャフトをロックしてください。	本体右側のシャフト解放レバーが下がったままの状態となっています。 シャフト解放レバーを上げて、シャフトをロックしてから  を押して、素材を挿入してください。(P.10)
データを読み込めませんでした。 PIN コードを再取得し、本体に登録して下さい。	- CanvasWorkspace に登録していないカッティングマシンから転送しようとしているとき、このメッセージが表示されます。 - お使いのマシンの登録が CanvasWorkspace からキャンセルされました。マシンを再登録してください。
データを保存できませんでした。 PIN コードを再取得し、本体に登録して下さい。	
データを削除できませんでした。	本製品で使用できない USB メモリーを使用している可能性があります。 USB メモリーを取り外して、再度操作してもメッセージが表示される場合は、USB メモリーを交換してください。 本製品に対応している USB メモリーについては、ブラザーソリューションセンター (http://s.brother/cpod/) で確認してください。
データを読み込めませんでした。	

CanvasWorkspace のエラー

エラーメッセージ (CanvasWorkspace)	原因／対処
3 階層グループ化されている図形を含むため、これ以上グループ化することはできません。(E93001)	カス取り枠をつける際、すでに 3 階層のグループ化がされています。 カス取り枠は元のオブジェクトとグループ化されます。4 階層以上のグループ化はできませんので、カス取り枠を付けたいオブジェクトのグループ化を解除してから実行してください。
指定されたサイズは選択したオブジェクトよりも小さい可能性があります。そのまま配置しますか？(N93001)	カス取り枠をつける際、カス取り枠のサイズ指定でサイズ設定時に、元のオブジェクトのサイズより小さい値が設定されています。 カス取り枠のカット線が元のオブジェクトと重なってしまいますので、カス取り枠のサイズを選択したオブジェクトより大きいサイズに設定してください。

ロールフィーダーの使い方

ロール状のビニールステッカーシートとアイロン熱転写シートにお使いいただけます。ロール素材に剥離紙がついていないと、ハーフカットをすることができません。

ロール状になっている素材（本書では以下、素材と呼ぶ）を、マットに貼らずに直接搬送して、カットすることができます。素材がアタッチメントで保持されることで、安定して繰り出され、適切に搬送されるようサポートされます。ロールフィーダーを使用することで、素材をマットに貼る必要がなくなり、長尺模様をカットしたり、複数模様を連続して効率的にカットすることが可能になります。

なお、ロールフィーダーは ScanNCut DX 専用です。ScanNCut DX 以外の機種ではご使用できません。

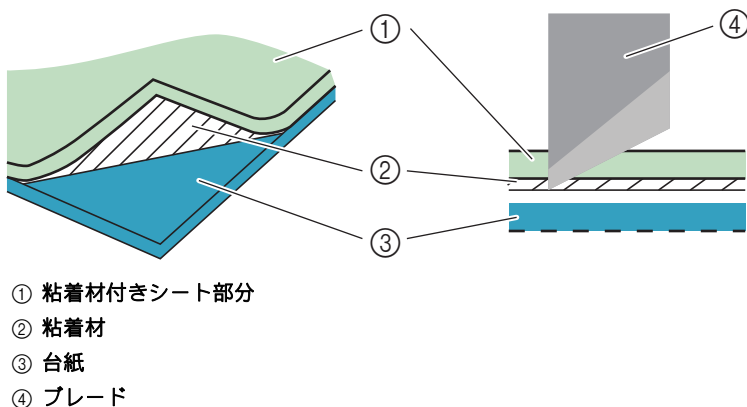
また、ロールフィーダー機能をお使いいただくためには、専用アプリの CanvasWorkspace (PC 版) をお手持ちのパソコンにインストールし、アプリ上で模様の編集をする必要があります。

適切な素材

素材をマットに貼らずにカットするには、ハーフカットをする必要があります。（ハーフカットはキスカットと呼ばれることもあります。）

ハーフカットとは、剥離紙や剥離フィルムのような台紙部分と、粘着材付きのシート部分が2層構造になっている素材（一般的にはビニールステッカーシートやアイロン熱転写シート* など）の、粘着材付きシート部分のみをカットすることです。そのため、ロールフィーダーを装着したマシン本体でカットできる素材はハーフカットができる素材に限定されます。台紙が付いていない素材（感熱紙やロール状のスケッチペーパーなど）はカットすることができません。ロールフィーダーは使用せず、マットに貼ってカットしてください。

* ロールフィーダーでの使用条件を満たしたアイロン熱転写シートのみ、ロールフィーダーでカットすることができます。



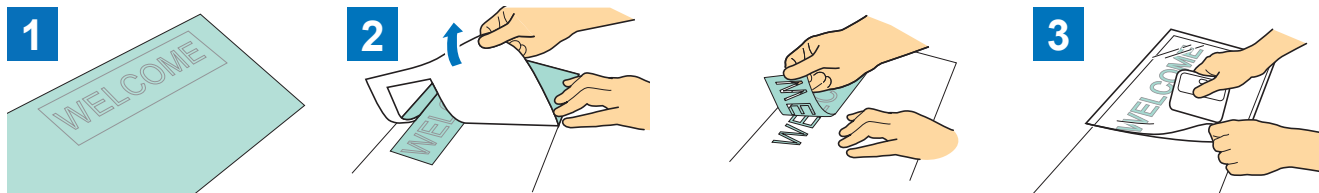
お使いいただける素材の例

● ビニールステッカーシート

看板やウインドウガラス、壁、車などの装飾として使われている、粘着材付きのシート材のことです。粘着材付きシートと台紙（剥離紙や剥離フィルム）の2層構造になっています。マシン本体で粘着材付きシート部分のみを文字やロゴなどの形状にカットした後、壁や車などの対象物に直接貼り付けて用います。

* シートを貼る前に小さい範囲で試し貼りをして、対象物を損傷しないことを確認して下さい。

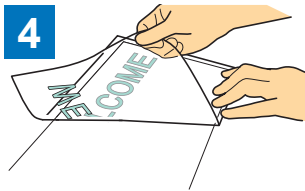
対象物にビニールステッカーシートを貼り付ける



マシン本体で好みの模様をハーフカットします。

必要な模様だけを台紙に残し、不要な部分を剥がします。（カス取り）

カス取りをして、必要な模様を残した台紙に、アプリケーションシート（⁽¹⁾）を貼り付けます。（⁽²⁾）



バラバラに切り抜かれた模様が、それぞれの配置を変えずにアプリケーションシートに転写されます。



対象面をきれいに拭いた上で、アプリケーションシートごとビニールステッカーシートを貼り付けます。^{(*)2}



最後にアプリケーションシートだけを剥がします。

- ^{*1} アプリケーションシートとは、転写シートやリタックシートなどとも呼ばれ、ビニールステッカーシートを対象の場所に貼る際に使用する弱粘着のシートです。ビニールステッカーシートと共にご用意ください。
- ^{*2} アプリケーションシートを貼る際や、ビニールステッカーシートを対象物に貼り付ける際には、スクレイパー (CASCP1) やプレイヤー (CABRY1) をお使いいただくと便利です。スクレイパー (CASCP1) やプレイヤー (CABRY1) のお問い合わせは本製品をお買い上げの販売店にお問い合わせください。

● アイロン熱転写シート

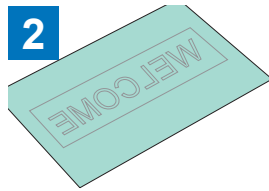
アイロン熱転写シートとはTシャツ、スウェット等の布生地に熱圧着できるシートのことです。熱で溶ける糊がついたシート材と台紙 (剥離紙や剥離フィルム) の2層構造になっています。マシン本体で、熱で溶ける糊がついたシート部分のみを文字や口ゴなどの形状にカットした後、台紙の上から熱転写機やアイロンで押さえることで、対象物に貼り付けます。

* アイロン熱転写シートに同梱されている説明書を参照してください。

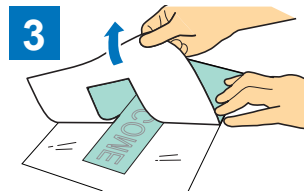
アイロン熱転写シートを対象物に貼り付ける



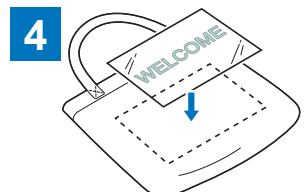
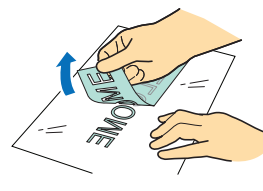
CanvasWorkspace で好みの模様を作成します。
この時、必ず模様を反転させておきます。詳しくは、カッティングマシン本体の『取扱説明書』を参照してください。



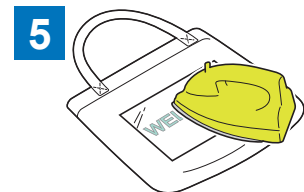
マシン本体でお好みの模様をハーフカットします。^{(*)1}



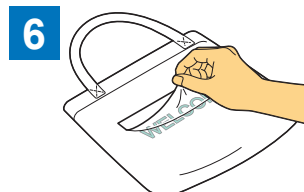
必要な模様だけを台紙に残し、不要な部分を剥がします。(カス取り)



布などの対象物^{(*)2}の上に、③の素材を台紙が上側に来るようにして置きます。



熱転写機やアイロンで熱圧着します。^{(*)3}



台紙だけを剥がします。

- ^{*1} ロール状のアイロン熱転写シートを、ロールフィーダーを装着した本体でカットする際には、素材の巻き方向にご注意ください。(P.35)
- ^{*2} 対象物が、アイロン熱転写が可能かどうかは事前にご確認ください。
- ^{*3} 熱圧着するための温度設定、熱圧着時間等の条件は、ご使用になる素材により異なります。素材の取扱説明書に従ってご使用ください。

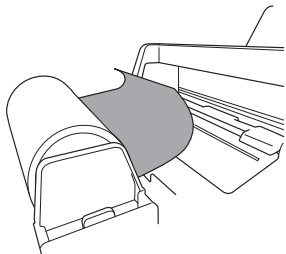
お使いいただけない素材について

剥離紙や剥離フィルムのついた素材でも、以下のような素材は使用しないでください。素材がカットング中に外れたり詰まったりする原因になります。

■ 剥離紙、剥離フィルムが下側になるように素材を装着した時、素材の先端が上側に反っている。

特にアイロン熱転写シートをお使いいただく際には、必ずご確認ください。

素材の先端が上側に反っている場合は、適切な大きさにカットし、マットに貼ってお使いください。

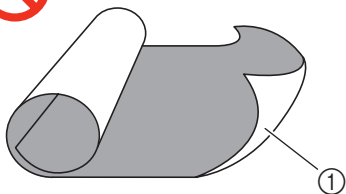


▶ マシン本体の中で、素材が詰まる原因となります。

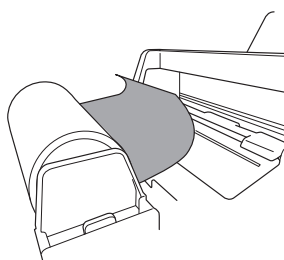


お願い

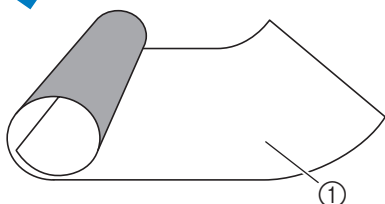
- アイロン熱転写シートの長さが 610 mm 以下の場合、別売りの 12" × 24" (305 mm × 610 mm) のカットングマットのご使用をおすすめします。
- ロール素材の長さが 610 mm より長い場合は、610 mm 以下の長さにカットしてから別売りの 12" × 24" (305 mm × 610 mm) のカットングマットに貼り付けてご使用ください。



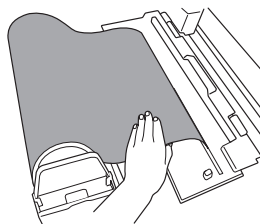
① 剥離紙（剥離フィルム）が外側になる巻き方



素材の先端が上側を向くので、正しく搬送されません。



① 剥離紙（剥離フィルム）が内側になる巻き方

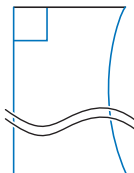


素材の先端が水平もしくは下側を向くため、正しく搬送されます。

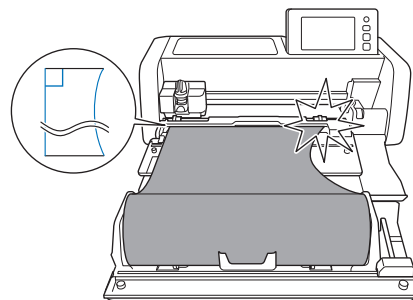
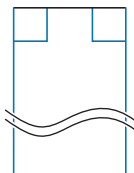
■ 素材の左右端が平行ではない。

- 左右端が平行ではない

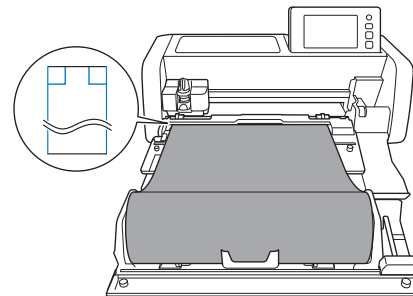
素材の搬送中に、素材がフィードローラーから外れる、素材が斜行するなど、正しく搬送されません。



- 左右端が平行



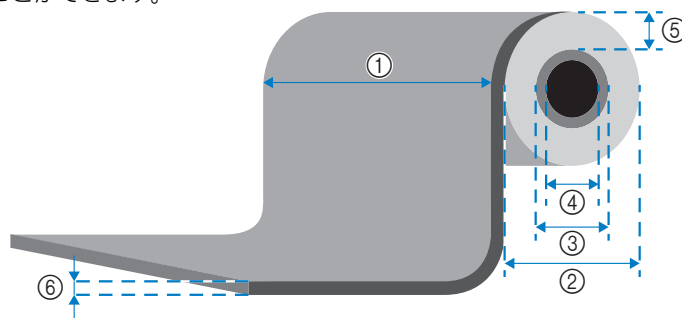
素材が正しく搬送されます。



ロールフィーダーに装着できるロール素材のサイズ

ロールフィーダーには、以下のサイズのロール素材を装着することができます。

① 素材の幅 ^{*1}	305 mm (12")
② 素材の直径	39 mm - 115 mm (1.5" - 4.5")
③ 素材の紙管のサイズ (外側) ^{*2}	42 mm - 115 mm (1.7" - 4.5")
④ 素材の紙管のサイズ (内側) ^{*2}	39 mm - 115 mm (1.5" - 4.5")
⑤ 素材の巻き幅 ^{*3}	0 mm - 21 mm (0" - 0.8")
⑥ 素材の厚み (剥離紙、剥離フィルムを含む)	0.21 mm - 0.35 mm



^{*1} カット可能な範囲 (幅) は、最大 251.8 mm (9.9") です。素材の左右端には、カットできないエリアがあります。

^{*2} 紙管のある素材の場合。

^{*3} 最大カット可能範囲 (送り方向) は、1,785 mm (70.3") です。(P.22 「連続してカットする」を参照してください。) また、ロールの残りの長さ (送り方向) が 305 mm (12") 以下になった場合や、305 mm x 305 mm (12" x 12") 以下のサイズのシート状素材は、マットに貼り付けて搬送し、カットしてください。

使用できるブレード

マットを使わず、ロールフィーダーを装着してカットするには、自動でハーフカットを行います。ロールフィーダー使用時には「自動調整用替え刃ホルダー」及び「自動調整用替え刃」を使用してください。

「自動調整用替え刃ホルダー」及び「自動調整用替え刃」をお使いいただく場合でも、作品に使用する素材を使って、きれいにカットできることを試し切りをして確認してください。自動でハーフカットが上手くいかない場合は、カット圧力を手動で調整することもできます。カット圧力の調整について、詳しくは、P.19 「カット圧力の設定値を変更する」を参照してください。

スキャナー昇降レバーの位置

素材が搬送される際、マシン本体の送り機構に当たり、正しく搬送されないことがあります。ロールフィーダーを使用して素材をカットするには、本体左横のスキャナー昇降レバーの位置を「2」に上げて使用してください。

